

第2回 西浦地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成29年10月7日（土）

午後1時30分～午後4時

会場：西浦公民館 本館 2階講堂

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
検討の進め方について ・進め方とスケジュール ・ご意見・ご質問への回答	1：50
公共施設の状況と課題 ・データで見る西浦地区の現状 ・課題解決に向けた視点の整理	2：00
(休憩)	2：15
グループ討議 ・西浦地区の課題 ・課題解決の方策	2：25
(休憩)	3：30
発表	3：40
事務連絡	3：55
閉会	4：00

<目次>

- ・ワークショップの趣旨・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・第1回ワークショップの結果概要（案）・・・・・・・・・・・・ 3
- ・進め方とスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・第1回ワークショップふりかえりシートご意見・・・・・・・・ 17
- ・データで見る西浦地区の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ・西浦地区の公共施設の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ・課題解決に向けた視点の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- ・本日の検討内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- ・第1回ワークショップでいただいたご意見の整理・・・・・・ 28
- ・（参考）西浦地区借地面積一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- ・（参考）愛知県津波浸水想定（愛知県HPより）・・・・・・ 32

次回ワークショップのご案内

「第3回西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようよろしくお願いいたします。

1 日時

平成29年12月17日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

西浦公民館 本館 2階講堂

3 お願い

- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

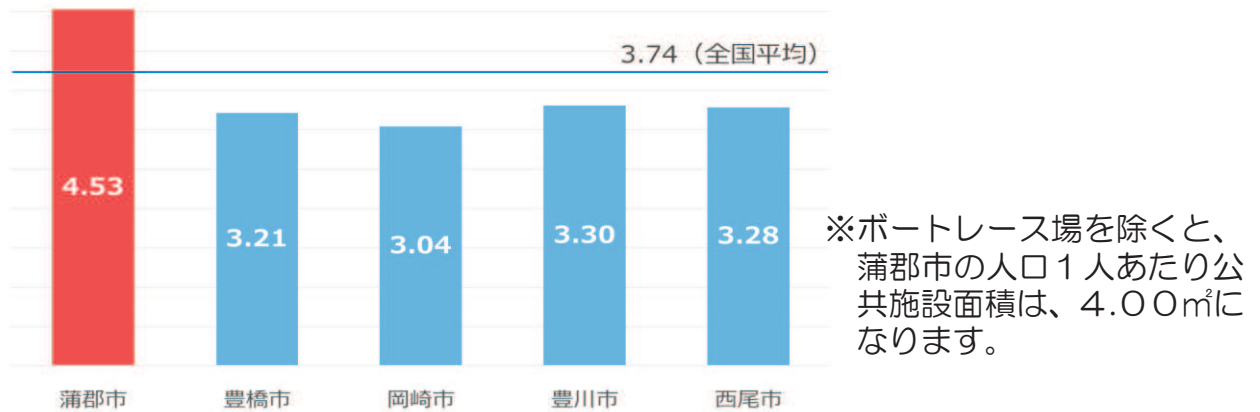
蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた塩津地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

〈 参 考 〉

人口1人あたり公共施設面積（㎡）（前回資料より抜粋）



【周辺自治体の取り組み】

施設の老朽化対策や適正配置に向けた取り組みは近隣他市でも行われています。

自治体名	取り組み
豊橋市	<ul style="list-style-type: none"> 施設評価を435施設を対象に実施し、「継続グループ」、「再調整グループ」、「廃止グループ」に分類、「廃止グループ」に分類された24施設について、平成25年9月に公共施設廃止計画を策定し、廃止を実行。 平成29年3月には公共施設等総合管理方針を策定し、①有給空間等の有効活用、②施設の長寿命化、③施設の複合化・集約化を通じて保有量の最適化を実現することを明記。
岡崎市	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月に策定された公共施設等総合管理計画により、施設類型別に削減目標を定める（例：コミュニティ施設は延べ床面積15%減）とともに、施設整備は、その目標内に収まるよう複合化などを通じて実施する原則を記載。
豊川市	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年6月に公共施設適正配置計画を策定し、今後50年間の一般施設の年平均トータルコストの削減目標を43%、市の保有面積の削減目標を50年間で30%と設定。 計画にはリーディング事業として、庁舎・支所の再編、コミュニティ施設の集約化、学校の統廃合や他機能との複合化を位置づけている。
西尾市	<ul style="list-style-type: none"> 2014年から2018年を計画期間とする公共施設再配置実施計画2014⇒2018を策定。 30年間のLCC（ライフサイクルコスト）削減効果目標を731億円、保有面積の削減目標を16%に設定。 計画には施設の多目的化を通じた再編などをはじめとする8つの具体事業の実現・実施を明記。 計画策定にあたっては有識者を座長とする市民参加型のワークショップを実施。

第1回ワークショップの結果概要

1 公共施設マネジメントについて

■ 基本的な考え方

- 将来的に人口が減少することは以前からわかっていたのだから、今から公共施設の対策をするというのは遅いくらいだと思う。
- 今後の人口減少はあくまで推計なのだから、地区の人口を増やすための取り組みがもっと必要ではないか。住宅の開発や供給、移住者に対する税金の免除など、特に若者世帯を増やすための施策を積極的に行ってほしい。
- 施設を単に縮小してしまうと利便性や魅力がなくなり、さらに利用者が減少する悪循環が起こることが心配だ。施設を有料化し、維持管理費に充てれば財政負担が軽減されるのではないか。

■ 施設の集約化・複合化

- 実施計画にある様な小学校に学童保育所やデイサービスセンターを複合化する案は、世代間の交流が期待できて良いと思う。
- 全市利用型施設が遠いことで不便を感じている中、地区利用型施設まで形原の方に集約、複合されてしまうとしたらより不便になってしまう。

■ 交通アクセス

- 公共施設の集約や複合化だけでなく、施設までの交通手段の確保についても議論するべきだ。
- 現在の立地のままで規模を縮小して建替える方が、これまでとアクセスが変わらないので利便性を維持できるのではないか。

2

検討の進め方

■ 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

- 公共施設の再編は地域にとって重要なことなので、ワークショップに参加していない総代、常会長などの地域の核となる人達の意見も聞いてはどうか。
- 将来を担う若い世代や保護者層である現役世代の意見を聞くべきだ。ワークショップに参加してもらったり、その他の手段を使って意見を集めるべきだ。
- オープンハウス（パネル展示型説明会）を活用して多様な世代の意見を聞いてはどうか。人の行き来のある西浦駅や蒲郡駅、待ち時間に見てもらえそうな郵便局やJAや信金、高齢者が集まる場になっている喫茶店など、開催場所にも工夫が必要だ。
- 借地上に公共施設があるとしたら、再編プランを作成してもその通りにいかない可能性がある。計画を検討する際には、地主との関係性や意向の把握も重要ではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ ワークショップの進め方

- 地区の住民にとって重要な課題なので、このようなワークショップを開催していることを、かわら版やオープンハウスなどを通じて広く地区の住民に知ってもらいたい。
- ワークショップメンバーになったものの、高齢でケガをしたために参加できそうにない人がいるので若い人に交代できると良い。
- 防災の観点から検討するための資料が提供されていないので示してほしい。
- 学校の空き教室の活用を検討したいので、小、中学校の空き教室の実態がわかるデータがあると良い。

3 地区のまちづくりの方向性

■ まちづくりの方向性

- 古くからの知り合いが多く互いの顔が見える関係は、ときには窮屈さを感じることもあるが、人と人とのつながりがありコミュニティがしっかりしているということでもあるので、住みやすく子育てしやすい環境だと思う。
- 少子高齢化対策のためにも、子育てしやすい自然環境であることをアピールしたり、現状の子育てしやすい環境をさらに伸ばすことで、若い世代が住みたくなる地域にすることが必要だ。
- 西浦の住民は保守的で仲間意識が強いところがあるので、積極的に他地区と交流して閉鎖的な意識を変えられると良い。
- 少年野球やサッカー等では他地区と交流しているので閉鎖的ではないと思う。
- 海に近い立地を生かして大企業を誘致することなどによって地区内に雇用の場を創出し、若い人が住み続けられるようにしてほしい。
- 西浦半島の東南側のオーシャンビューや龍田浜のウォーターフロント、魚市場、マリンスポーツなどの海の魅力を生かしてPRを行い、リピーターを含めた観光客を増やし地区にお金を落とせる産業おこしができると良い。
- 増加している空き店舗を利用して、まちを活性化させることが何かできないだろうか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 現状の課題と解決策

- 道路が狭く、車のすれ違いが困難、緊急、福祉車両が入れない、子どもや高齢者などの歩行者にとって危険などの問題がある。その不便さが若い世代が定着しない一因になっていると思う。
- 道路の狭さに対して、建築基準法上の最低限の道路空間を空けて家を建てる様に徹底する、ハンプ（車の速度を落とさせるためのこぶ）を設ける、通学路では登下校時間は車を通行止めにするなどの策を講じてはどうか。
- 交通の便が悪く、通勤、通学しにくいことが人口減につながっているのではないか。もし将来的に名鉄蒲郡線が廃線になってしまったら、今よりさらに利便性が下がってしまう。
- 蒲郡市の高齢化率は高く、その中でも西浦地区は特に高い。選挙、買い物など市の中心部に出ないとできないことが多いので、車が使えない高齢者にとって公共交通は必要だ。くるりんバスの運行範囲を西浦地区まで広げるなど、公共交通の充実を検討してほしい。
- 津波が心配だが、防災マップがわかりにくく防災情報の提供に課題がある。
- 消火栓や防火水槽の前に路上駐車がされていざという時に使えない。看板やペンキが剥げて存在が目立たなくなっていることに問題があるので、メンテナンスが必要だ。
- 派出所が無くなったが市民パトロールなどを行い、地域の防犯活動が行われている。

■ 公共施設全般

- 西浦地区の公共施設は、地区内の一定の場所に集中しているため、住民の公共施設への関心もその周辺の住民に限られてくる。遠い人には公共施設の様子が伝わらない。
- 高齢者が集まって話ができる場所が近所にあると、介護が必要な高齢者と介護している人の双方にとって良いと思う。
- ユトリーナ蒲郡は公共施設の割に利用料金が高いと感じる。
- 市民病院、図書館などの全市利用型施設が遠い。

■ 小学校・中学校

- 小学校も中学校も児童、生徒数が少ないため部活動の種類が限られ、選択肢が少ないといった問題がある。大勢の中で切磋琢磨する環境も作りにくい。
- 児童、生徒数が少ないことが地域全体で子どもを育てようという雰囲気を生んでいたり、部活内の団結力を強めるという良い面もある。
- 児童、生徒数が少ないのであれば西浦小学校と西浦中学校を複合化したり、小中一貫校にしてはどうか。
- 西浦小学校と西浦中学校を複合化するとしたら、高い場所にある中学校の立地なら津波時の避難所にもなり、防災的に安心だ。一方で、小さい子ども達の通学のことを考えると小学校の立地の方が便が良く、各々に良し悪しがある。
- 生徒数の少なさを考えると、西浦中学校と形原中学校の統合も考えられるのではないかと。ただその場合は、橋田などの形原地区から遠い子ども達の

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

通学の利便性確保が課題になる。

- 西浦中学校が形原中学校に統合されると、西浦がますます衰退してしまうのではないかと心配だ。通学も大変になるので望ましくない。
- 西浦中学校に在籍していても形原中学校の野球部に参加ができるなど、部活だけでも統合してはどうか。両方の中学校の生徒が来やすいように、中間にある公園や公民館などで部活動をしてもらいたい。
- 中学校は緑が多く、静かで良い環境が保たれている。以前は保護者も関わっていたが、今は先生方だけで維持管理をしているので、今後もその環境を維持していくためには、学校側の負担を大きくしない様に、担い手の問題を解決しなくてはならない。
- 以前は小学校と保育園が一緒にあったが、児童数の増加に伴って保育園が移転した。今は人数が減っているのなら、再度一緒にすれば小学校の空き教室が活用でき、運動会などの行事もにぎやかになるので良いと思う。
- 小中学校の空き教室を活用してはどうか。その場合は、防犯カメラの設置など、セキュリティの課題を解決する必要があるだろう。
- 体育館だけでなく図工室や調理室なども開放し、様々な活動で地区の住民が学校を活用できると良い。その場合、競技によってはコートなどのサイズなど、大人と子どもで仕様に違いがあるので配慮が必要だ。
- 放課後の子どもたちの居場所づくりがもっと必要だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 保育園

- 西浦保育園が 0 歳児保育を行っていなかった頃は形原南保育園まで行く人も多かった。求めているサービスを提供している保育園や人気の高い幼稚園には、越境してでも通わせる親が多い様だ。

■ 児童館

- 児童館にある児童クラブは手狭で、小学校からも離れているので、小学校内に児童クラブの機能を入れてほしい。
- 児童館では未就園児、未就学児も元気よく遊んでおり、子どもに充実した遊び環境を提供する施設は増やしたい。

■ 公民館

- 公民館には利用率の低い部屋があるが、利用者数は市内で上位である。
- 市の出張所が無くなったが、公民館に代替機能があるので特に不満はない。

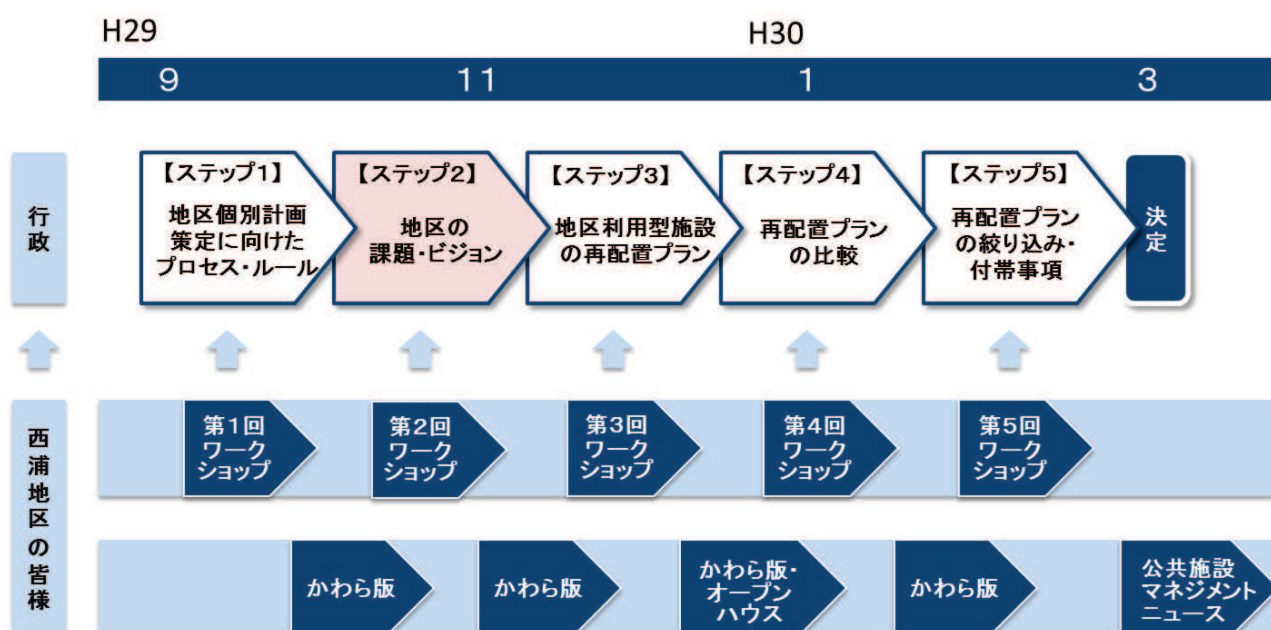
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。
- ステップ5** 再配置プランの絞り込みをします。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版
- ・ 公共施設マネジメントニュース



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

西浦地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

西浦地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

【公共施設マネジメントニュース】

市の全世帯に配布するチラシです。ワークショップで検討された結果をお知らせします。

4 ワークショップの概要

- ・ ワークショップは、平成30年2月ごろまでに5回程度開催します。
- ・ 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- ・ 会場は、原則として西浦地区内の小中学校または公民館とします。
- ・ 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ・ ワークショップには、公募にご応募いただいた方が参加します。
- ・ 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ・ ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただきます。
- ・ 一般の傍聴者や報道陣が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- ・ グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ・ ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、会の最後に各グループの議論の結果を発表し、後日、各回の成果として取りまとめます。
- ・ グループ討議の途中の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- ・ 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ・ ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行うことがあります。会場内で録音・撮影する場合があることをご了承ください。

6

ワークショップの成果

- ・ ワークショップの最終回までにまとめ上げた成果は、複数の再配置プランの評価結果を比較表として整理します。
- ・ 比較表の内容の一部（あるいは全体）は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。
- ・ 各回の成果についても記録として残します。

7

進め方に関するご意見・ご質問への回答

1) 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

ご意見・ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> • 公共施設の再編は地域にとって重要なことなので、ワークショップに参加していない総代、常会長などの地域の核となる人達の意見も聞いてはどうか。 • 将来を担う若い世代や保護者層である現役世代の意見を聞くべきだ。ワークショップに参加してもらったり、その他の手段を使って意見を集めるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> • かわら版でワークショップの検討状況を広く地区の皆様にお知らせするとともに、ご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップで報告いたします。 • また、オープンハウス（パネル展示型説明会）を実施し、広く地区の皆様のご意見をお聴きします。
<ul style="list-style-type: none"> • オープンハウス（パネル展示型説明会）を活用して多様な世代の意見を聞いてはどうか。人の行き来のある西浦駅や蒲郡駅、待ち時間に見てもらえそうな郵便局やJAや信金、高齢者が集まる場になっている喫茶店など、開催場所にも工夫が必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> • ご提案いただいた場所を含めてオープンハウスの開催場所を検討いたします。多くの方にお越しただける場所で開催したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> • 借地上に公共施設があるとしたら、再編プランを作成してもその通りにいかない可能性がある。計画を検討する際には、地主との関係性や意向の把握も重要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 必要に応じて個別のヒアリングなどを実施することを検討します。 • 参考に借地についての資料「西浦地区借地面積一覧」（p.31）を用意しました。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

2) ワークショップの進め方

ご意見・ご質問	回答									
<ul style="list-style-type: none"> • 地区の住民にとって重要な課題なので、このようなワークショップを開催していることを、かわら版やオープンハウスなどを通じて広く地区の住民に知ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • かわら版やオープンハウス（パネル展示型説明会）等を通じて地区の皆様にワークショップの取り組みを周知します。 									
<ul style="list-style-type: none"> • ワークショップメンバーになったものの、高齢でケガをしたために参加できそうにない人がいるので若い人に交代できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 段階的・継続的な議論が必要であるため、参加いただく方は固定とさせていただきます。 									
<ul style="list-style-type: none"> • 防災の観点から検討するための資料が提供されていないので示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • p.25に避難所指定状況等を記載しました。 • また、ハザードマップ及び「愛知県津波浸水想定」（p.32）を用意しました。 									
<ul style="list-style-type: none"> • 学校の空き教室の活用を検討したいので、小、中学校の空き教室の実態がわかるデータがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 西浦地区の児童生徒数は、資料集のp.10のとおり大幅に減少しており、それに伴い必要な教室数も減少しています。 • 空いた教室は、現在は、資料室や多目的室等として利用されています。 <p>教室等の一覧は、資料集p.26及びp.28をご参照下さい。</p> <p>(参考) 児童生徒数</p> <table border="1" data-bbox="810 1680 1353 1809"> <thead> <tr> <th></th> <th>S53</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西浦小</td> <td>852人</td> <td>245人</td> </tr> <tr> <td>西浦中</td> <td>452人</td> <td>95人</td> </tr> </tbody> </table>		S53	H29	西浦小	852人	245人	西浦中	452人	95人
	S53	H29								
西浦小	852人	245人								
西浦中	452人	95人								

第1回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- どんな会なのだろうとドキドキして参加しましたが、会の冒頭、ファシリテーターの方が「この会で何かを決めろ、何かを決定するものではありません」とおっしゃって下さって、自由に気楽に話していいのだとホッとしました。プロの方が仕切って下さって、議論もスムーズに進行し、誰かが発表する負担もなかった点が私としてはとても良かったです。2時間超、とても長いなと参加する前は思っていたのですが、あっという間に過ぎました。
- 意見が出しやすかった。
- それぞれ皆さん西浦の事をよく考えているなと思った。
- 各自思ったことが発言できて良かった。
- それぞれの年齢の皆さんの意見を聞く事ができて、良かったです。
- 人によって思っていなかった意見があって良かった。
- 色々な方（年代）の西浦に対する意見が聞けて勉強になりました。
- 各立場、住む場所により見方が違うところが良かったと思います。
- 自分の知らないことが分かり、参考になりました。
- 普段話さない内容を話せて良かった。
- 皆さん色々なことを知っていて、勉強になりました。
- 幅広い世代の方から意見が聞けたので色々参考になった。
- 西浦の現状及び問題点を全員確認することが出来たので良かった。
- 女性の発言が、近年・未来を考えて発言している。
- 忌憚の無い意見が出た。

2 内容について言い足りなかったこと

- 会の最後に少し話したのですが、このような地域の事を考える会に是非中学生（生徒会など）も参加してもらえたらと思います。もしくは、学校の学活などでクラスごとに議論してもらったら、学校の事などはきっと大人では考えつかない意見が出てくるのではと思います。
- 10年前からわかっていた問題がいま現実になって来た。
- 良かった。
- 西浦の事をもっと考えておくべきだった。
- 施設建て直し、合併した場合の不用施設はどうなるのか？その時のお金は？という事が聞きたかったです。
- 住み易さ、住みにくさの具体的な話が十分できなかった。住む人が増える要素につながるものが見つけることが可能なのか。
- もっと西浦を知って参加したいと思います。
- 今日は初回なので、今日は今日で良かったです。
- 参加者以外（町民）の意見も確実に反映出来る様にすること。
- 小、中学校等の空部屋の話が出たが配布された資料では分からない。他のことも言える。
- 野球のスコアボード（形原球場）の自動化、電子化を整備する事。

3 今日のワークショップの進め方について

- とても気楽な雰囲気を作り出してくれて、本当に良かったです。皆さんが平等に発言する時間がありましたし、また次も来ようと思える会でした。実は次回、欠席なのですが、3度目、出席したときに簡単に2度目の内容を教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。
- よかったと思います。
- 良かった。
- OK。
- とても良かったです。
- このワークショップに参加していない人の意見を、アンケートの利用によってワークショップの話し合いにデータとして使えるといいと思う。
- 意見も述べることができたので良かったです。
- 特にはありません、とても良かったです。
- 上手に進めて頂きました。
- ファシリテーターの司会進行のもと各人が自分の意見を発言していたので、現状では問題ないと思う。
- ワークショップのことを町民に対してPRすべきだ。

データで見る西浦地区の現状

1 地区の特色

- ・ 西浦地区は、蒲郡市最西部の半島に位置しており、海に囲まれた風光明媚な地区です。
- ・ 半島の南東側は丘陵をなしています。西部は平坦部であり、西浦駅周辺には、住宅を中心とした市街地が形成されています。南部には温泉旅館や海水浴場があり、観光地となっています。
- ・ 漁港もあり、漁業が盛んですが、近年は漁業従事者数が減少しています。
- ・ 蒲郡駅から西隣の西尾市へと延びる名鉄蒲郡線が地区に住む学生や高齢者にとっての重要な交通手段となっています。
- ・ 人口は、5,686人（平成27年国勢調査）で、蒲郡市全体の（81,100人）の約7%を締めています。

2 地区間公共施設保有量比較

- ・ 西浦地区の地区利用型施設の人口1人あたり延べ床面積は、 $2.74 \text{ m}^2/\text{人}$ と最も高く、市全体（ $2.00 \text{ m}^2/\text{人}$ ）と比較して、約37%多い状況です。

地区	人口(H27)	施設区分	公共施設 保有面積 (m^2)	人口1人 あたり面積 ($\text{m}^2/\text{人}$)
大塚	6,553	全市利用	16,848	2.57
		地区利用	14,820	2.26
		総計	31,668	4.83
三谷	12,934	全市利用	7,201	0.56
		地区利用	25,431	1.97
		総計	32,632	2.52
蒲郡北	12,379	全市利用	50,765	4.10
		地区利用	27,144	2.19
		総計	77,909	6.29
蒲郡南	17,038	全市利用	59,613	3.50
		地区利用	35,617	2.09
		総計	95,230	5.59
塩津	11,179	全市利用	53,670	4.80
		地区利用	17,589	1.57
		総計	71,259	6.37
形原	15,331	全市利用	9,560	0.62
		地区利用	25,632	1.67
		総計	35,192	2.30
西浦	5,686	全市利用	12,943	2.28
		地区利用	15,593	2.74
		総計	28,535	5.02
市全体	81,100	全市利用	210,600	2.60
		地区利用	161,826	2.00
		総計	372,426	4.59

※ 人口は、国政調査データに基づき算出

※ 分析対象は、公共施設白書における対象施設

※ 地区利用型施設には、小規模施設（公園便所等）を含む

3 人口

- ・ 国勢調査のデータによると、西浦地区の人口は、平成 27 年までの 20 年間で 1,930 人（約 25%）、5年間で 577 人（約 9%）減少しました。今後も人口の減少が見込まれます。

西浦地区の人口推移

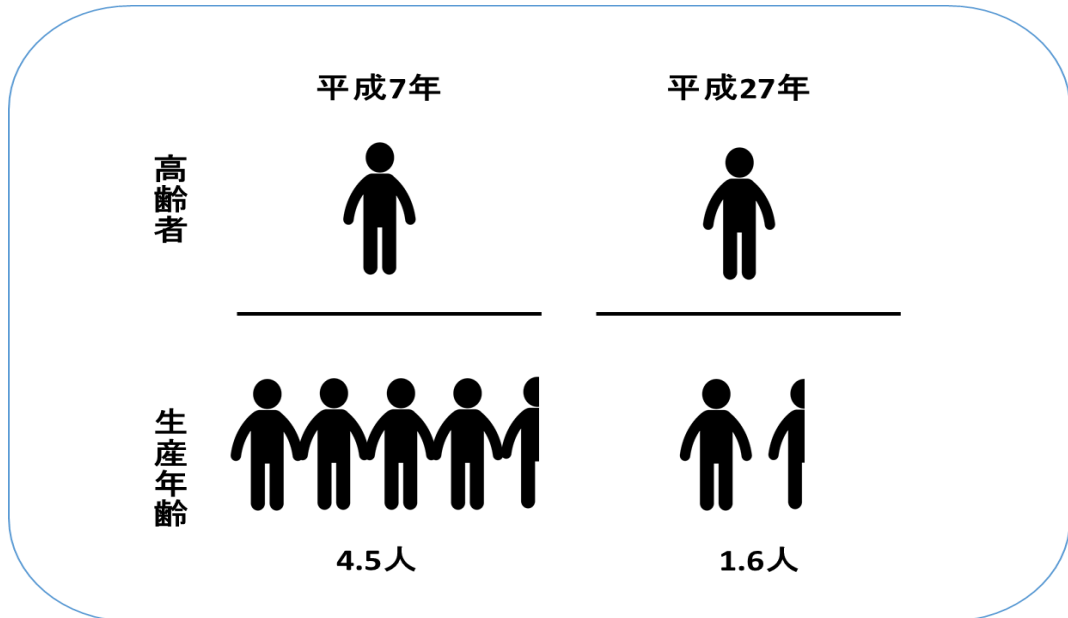
人口区分		平成7年	平成22年	平成27年	平成37年	平成47年	平成57年
高齢者人口 (65歳以上)	目標値			2,042人	2,058人	1,870人	1,586人
	実績値	1,180人	1,802人	1,999人			
生産年齢人口 (15~64歳)	目標値			3,442人	2,952人	2,601人	2,394人
	実績値	5,256人	3,817人	3,138人			
年少人口 (14歳以下)	目標値			605人	609人	616人	598人
	実績値	1180人	644人	549人			
総計	目標値			6,089人	5,619人	5,087人	4,578人
	実績値	7,616人	6,263人	5,686人			

- ※ 目標値は、「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を西浦地区に適用して算出
- ※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出

西浦地区からの転出・転居先内訳

(期間：平成24年11月1日から平成29年9月22日まで)

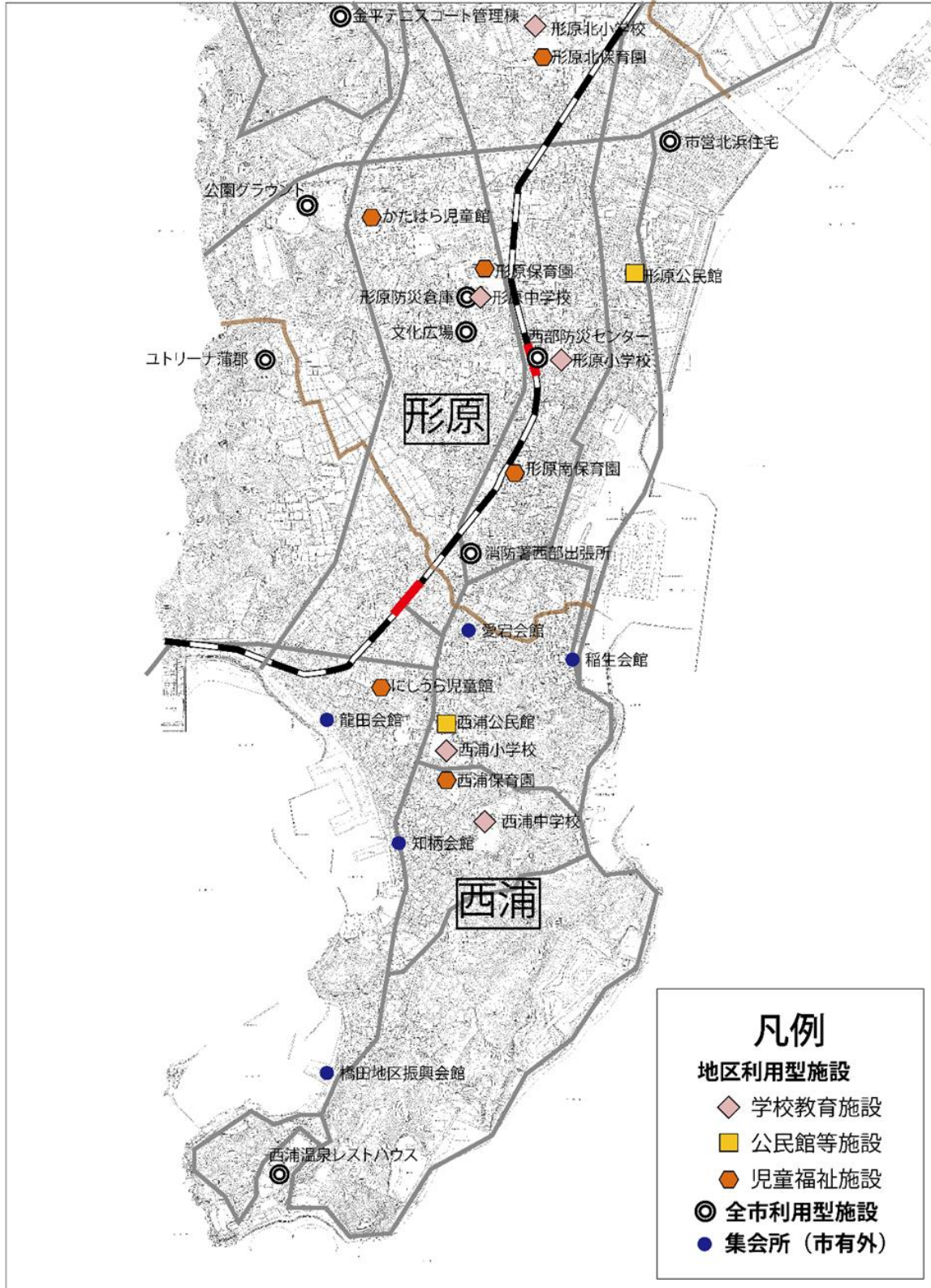
転出・転居先			人数	割合
国外			23	3.54%
県外			135	20.77%
県内	東三河	豊橋市	21	3.23%
		豊川市	19	2.92%
		新城市	2	0.31%
		田原市	0	0.00%
	西三河	岡崎市	53	8.15%
		幸田町	47	7.23%
		西尾市	24	3.69%
		安城市	18	2.77%
		刈谷市	5	0.77%
		知立市	3	0.46%
		豊田市	7	1.08%
		碧南市	2	0.31%
		みよし市	1	0.15%
		高浜市	0	0.00%
	名古屋市	27	4.15%	
豊明市	3	0.46%		
春日井市	5	0.77%		
県内その他	22	3.38%		
蒲郡市内			233	35.85%
計			650	—



- ・ 高齢者（65歳以上）1人に対する生産年齢人口（15歳～65歳）の人数は、平成7年当時は4.5人だったものが平成27年には、1.6人にまで減少しています。

西浦地区の公共施設の状況

1 西浦地区の公共施設配置



まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

2

西浦地区の公共施設概要

名称	写真	概要(特徴・課題・利用状況等)
西浦 小学校		<ul style="list-style-type: none"> ・最も古い校舎は昭和31年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・児童数245人、普通教室数11クラス（5年生のみ1クラス、その他は2クラス）、特別支援学級2クラス。（平成29年4月現在） ・運動場は地域のサッカーチーム、少年野球チーム等で利用されている。 ・体育館は地域のバレーチーム、卓球、バドミントン等で利用されている。
西浦 中学校		<ul style="list-style-type: none"> ・最も古い校舎は昭和38年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・生徒数95人、普通教室数3クラス、特別支援学級2クラス。（平成29年4月現在）
西浦 保育園		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・園児数は82人（定員120人）（平成29年4月現在） ・低年齢児保育を実施しており、0～2歳児を17人受け入れている。 ・延長保育を実施しており、午前7時30分から午後6時まで利用できる。
にしうら 児童館		<ul style="list-style-type: none"> ・平成13年に建設されており、比較的健全な状態を維持している。 ・0歳から18歳を対象とした施設。開館日数は294日、年間利用者数22,750人（平成28年度） ・親子で参加するイベント（赤ちゃんサロン・親子クラブ）が月3回実施しており、母親の交流の場となっている。 ・近隣の高齢者を招き、子どもたちと一緒にゲームをする企画を催すことで、多世代交流の場となっている。 ・利用者が増えていることから、プレイルームを時間予約制とし、安全面への配慮を行っている。
西浦 公民館		<ul style="list-style-type: none"> ・本館は昭和52年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・生涯学習、学術及び文化に関する各種事業を行うほか、住民の教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する場として設置されている。 ・年間利用者数は32,502人、貸部屋の利用率（稼働率）は19.2%である。（平成28年度） ・本館と南館があり、南館には図書館の分室がある。

3 西浦地区の公共施設データ（平成26年度蒲郡市公共施設白書より）

【地区利用型施設】

利用種別	施設用途 (大分類)	施設用途 (中分類)	施設名称	延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	建築年	老朽化度	危険区域該当		避難所 指定	防災設備の有無				市の支出				市の収入 (千円)	市の負担額 (千円)	面積あたり 市負担額 (円/㎡)	利用者数				平均 園児数 (人)	平均 児童・生徒数 (人)	園児・児童・生徒 一人あたり延床 面積(㎡/人)	貸部屋等 利用率 (%)	ポートフォリオ評価		
								津波 浸水	土砂 災害		防災 備蓄 用品	非常用 発電 装置	非常用 通信 装置	災害用 電話 配線	施設に係 るコスト (千円)	事業運営に 係るコスト (千円)	人に係る コスト (千円)	指定 管理料 (千円)				3年平均 (人)	1日あたり 平均 (人/日)	面積あたり 1日あたり平均 (人/㎡・日)	一人あたり 延床面積 (㎡/人・日)					ハード評価	ソフト評価	総合評価
地区 利用 型 施設	公民館等施設	公民館・市民会館	西浦公民館	1,078	1,766	S52	2.5			○	○		○	3,340	0	0	7,089	5	10,424	9,668	44,433	153.7	0.143		-	-	-	22.8	52.0	54.7	A	
	児童福祉施設	保育園	西浦保育園	1,184	5,053	S58	2.9			○	○		○	7,851	17,628	64,967	0	17,793	72,653	61,340	-	-	-		93	-	12.7	-	48.6	50.9	C	
			児童館	にしうら児童館	491	1,987	H13	1.8							○	2,013	3,371	8,100	0	487	12,997	26,469	18,156	61.8	0.126		-	-	-	62.8	46.2	B
	学校教育施設	小学校	西浦小学校	6,101	18,832	S31	2.9			○	○	○	○	○	37,975	7,407	3,600	0	93	48,889	8,013	-	-	-		-	229	26.6	-	40.2	46.7	D
			中学校	西浦中学校	6,737	40,131	S38	2.1		○	○	○	○	○	○	21,495	7,699	2,700	0	93	31,801	4,720	-	-	-		-	157	42.8	-	50.3	53.3

※「危険区域該当」における「津波浸水」は平成26年5月30日発表 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査に基づく津波浸水区域を指します。「土砂災害」は愛知県による土砂災害特別警戒区域を指します。

※「避難所」は避難施設（長期滞在）及び地域避難所（風水害の一時避難場所）を掲載しています。

※利用状況の値は3か年（平成23～25年度）の平均値を掲載しています。

【全市利用型施設】

利用種別	施設用途 (大分類)	施設用途 (中分類)	施設名称
全市 利用 型 施設	保健・福祉施設	福祉センター等	ユトリーナ蒲郡
	観光施設	観光施設	西浦温泉レストハウス

課題解決に向けた視点の整理

- 第1回ワークショップでいただいたご意見が、どのような視点で発言いただいているのか、事務局で整理しました。
- いただいたご意見は、7つの視点に分類することができます。

視 点	第1回ワークショップでいただいたご意見要約、市及び地区の課題・配慮すべき事項
① 地区の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・海や自然などの魅力をさらに発信してはどうか ・空き店舗を活用してまちを活性化 ・若い世代が定着しない ・積極的に他地区と交流してはどうか
② 人口減少・少子高齢化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人口を増やすための取り組みが必要 ・高齢者が集まって話ができる場所があるとよい ・子育て環境をさらに充実させ若い世代が住みたくなる地域に
③ 教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数が少ないため切磋琢磨する環境が作りにくい ・部活動の選択肢が少ない ・小学校と児童館は距離が離れていて不便
④ 災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が心配 ・防災情報の提供に課題がある
⑤ アクセシビリティへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へのアクセス低下が心配 ・車を使わない人や高齢者の交通手段を確保 ・市中心部へのアクセスが不便
⑥ 将来負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化に伴う収税減 ・施設の有料化により財政負担を軽減
⑦ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区の学校と部活を統合してはどうか ・公共施設の状況が伝わらない ・維持管理の担い手を確保
⑧

※ 皆様のご意見をどのように本資料の形に整理したかについてはp.28～p.30の「第1回ワークショップでいただいたご意見の整理」をご覧ください。

本日の検討内容

- ① 第1回ワークショップで出された意見を反映し、皆さんが大切と思っている7つの視点をまとめました。皆様のご意見は反映されていますか。追加すべき視点はありますか。

(WSを通じて得られた課題の視点)

- ① 地区の活性化
- ② 人口減少・少子高齢化社会への対応
- ③ 教育環境の適正化
- ④ 災害時の対応
- ⑤ アクセス性への配慮
- ⑥ 将来負担の軽減
- ⑦ 運営の改善

- ② 各々の視点について、課題を解決するためにどのようなことに具体的に取り組んでいくとよいでしょうか。

第1回ワークショップでいただいたご意見の整理

○第1回ワークショップでは、さまざまな観点からワークショップの進め方や西浦地区の課題についてご意見をいただきました。

○p.26「課題解決に向けた視点の整理」を作成するために、いただいたご意見はどのような視点に基づいているのか、事務局で整理しました。

【現状でご意見をいただいている視点のカテゴリー】

①地区の活性化 ②人口減少・少子高齢化社会への対応 ③教育環境の適正化 ④災害時の対応 ⑤アクセス性への配慮 ⑥将来負担の軽減 ⑦運営の改善

※ここでご意見をいただいた内容について、公共施設の将来を考えていくことを通じて解決していきたいと市は考えています。

分類	第1回ワークショップでいただいたご意見	カテゴリー
人口減への対策	将来的に人口が減少することは以前からわかっていたのだから、今から公共施設の対策をするというのは遅いくらいだと思う。	②人口減少・少子高齢化社会への対応
	今後の人口減少はあくまで推計なのだから、地区の人口を増やすための取り組みがもっと必要ではないか。住宅の開発や供給、移住者に対する税金の免除など、特に若者世帯を増やすための施策を積極的に行ってほしい。	②人口減少・少子高齢化社会への対応
施設の複合化・集約化に関して	施設を単に縮小してしまうと利便性や魅力がなくなり、さらに利用者が減少する悪循環が起こることが心配だ。施設を有料化し、維持管理費に充てれば財政負担が軽減されるのではないか。	⑥将来負担の軽減
	実施計画にある様な小学校に学童保育所やデイサービスセンターを複合化する案は、世代間の交流が期待できて良いと思う。	①地区の活性化 ②人口減少・少子高齢化社会への対応
	全市利用型施設が遠いことで不便を感じている中、地区利用型施設まで形原の方に集約、複合されてしまうとより不便になってしまう。	⑤アクセス性への配慮
交通アクセス	公共施設の集約や複合化だけでなく、施設までの交通手段の確保についても議論するべきだ。	⑤アクセス性への配慮
	現在の立地のままで規模を縮小して建替える方が、これまでとアクセスが変わらないので利便性を維持できるのではないか。	⑤アクセス性への配慮

分類	第1回ワークショップでいただいたご意見	カテゴリー
まちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 古くからの知り合いが多く互いの顔が見える関係は、ときには窮屈さを感じることもあるが、人と人とのつながりがありコミュニティがしっかりしているということでもあるので、住みやすく子育てしやすい環境だと思う。 	○現状認識
	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化対策のためにも、子育てしやすい自然環境であることをアピールしたり、現状の子育てしやすい環境をさらに伸ばすことで、若い世代が住みたくなる地域にすることが必要だ。 	①地区の活性化 ②人口減少・少子高齢化社会への対応
	<ul style="list-style-type: none"> 西浦の住民は保守的で仲間意識が強いところがあるので、積極的に他地区と交流して閉鎖的な意識を変えられると良い。 	①地区の活性化
	<ul style="list-style-type: none"> 少年野球やサッカー等では他地区と交流しているので閉鎖的ではないと思う。 	○現状認識
	<ul style="list-style-type: none"> 海に近い立地を生かして大企業を誘致することなどによって地区内に雇用の場を創出し、若い人が住み続けられるようにしてほしい。 	①地区の活性化
	<ul style="list-style-type: none"> 西浦半島の東南側のオーシャンビューや龍田浜のウォーターフロント、魚市場、マリンスポーツなどの海の魅力を生かしてPRを行い、リピーターを含めた観光客を増やし地区にお金を落とせる産業おこしができると良い。 	①地区の活性化
	<ul style="list-style-type: none"> 増加している空き店舗を利用して、まちを活性化させることが何かできないだろうか。 	①地区の活性化
現状の課題と解決策	<ul style="list-style-type: none"> 道路が狭く、車のすれ違いが困難、緊急、福祉車両が入れない、子どもや高齢者などの歩行者にとって危険などの問題がある。その不便さが若い世代が定着しない一因になっていると思う。 	○地域特有の事情
	<ul style="list-style-type: none"> 道路の狭さに対して、建築基準法上の最低限の道路空間を空けて家を建てる様に徹底する、ハンプ（車の速度を落とさせるためのこぶ）を設ける、通学路では登下校時間は車を通行止めにするなどの策を講じてはどうか。 	○地域特有の事情
	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便が悪く、通勤、通学しにくいことが人口減につながっているのではないかと。もし将来的に名鉄蒲郡線が廃線になったら、今よりさらに利便性が下がってしまう 	○地域特有の事情
	<ul style="list-style-type: none"> 蒲郡市の高齢化率は高く、その中でも西浦地区は特に高い。選挙、買い物など市の中心部に出ないといけないことが多いので、車が使えない高齢者にとって公共交通は必要だ。くるりんバスの運行範囲を西浦地区まで広げるなど、公共交通の充実を検討してほしい。 	②人口減少・少子高齢化社会への対応 ⑤アクセス性への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 津波が心配だが、防災マップがわかりにくく防災情報の提供に課題がある。 	④災害時の対応 ⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 消火栓や防火水槽の前に路上駐車がされていざという時に使えない。看板やペンキが剥げて存在が目立たなくなっていることに問題があるので、メンテナンスが必要だ。 	○地域特有の事情
	<ul style="list-style-type: none"> 派出所が無くなったが市民パトロールなどを行い、地域の防犯活動が行われている。 	○地域特有の事情
公共施設全般	<ul style="list-style-type: none"> 西浦地区の公共施設は、地区内の一定の場所に集中しているため、住民の公共施設への関心もその周辺の住民に限られてくる。遠い人には公共施設の様子が伝わらない。 	⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が集まって話ができる場所が近所にあると、介護が必要な高齢者と介護している人の双方にとって良いと思う。 	②人口減少・少子高齢化社会への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ユトリーナ蒲郡は公共施設の割に利用料金が高いと感じる。 	⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院、図書館などの全市利用型施設が遠い。 	⑤アクセス性への配慮

分類	第1回ワークショップでいただいたご意見	カテゴリー
小学校・中学校	<ul style="list-style-type: none"> 小学校も中学校も児童、生徒数が少ないため部活動の選択肢が少なく、やりたい競技がないと越境する子どもも出てきている。大勢の中で切磋琢磨する環境も作りにくい。 	③教育環境の適正化
	<ul style="list-style-type: none"> 児童、生徒数が少ないことが地域全体で子どもを育てようという雰囲気を生んでいたりと、部活内の団結力を強めるという良い面もある。 	③教育環境の適正化
	<ul style="list-style-type: none"> 児童、生徒数が少ないのであれば西浦小学校と西浦中学校を複合化したり、小中一貫校にしてはどうか。 	③教育環境の適正化
	<ul style="list-style-type: none"> 西浦小学校と西浦中学校を複合化するとしたら、高い場所にある中学校の立地なら津波時の避難所にもなり、防災的に安心だ。一方で、小さい子ども達の通学のことを考えると小学校の立地の方が便が良く、各々に良し悪しがある。 	③教育環境の適正化 ④災害時の対応 ⑤アクセス性への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の少なさを考えると、西浦中学校と形原中学校の統合も考えられるのではないかと心配だ。ただその場合は、橋田などの形原地区から遠い子ども達の通学の利便性確保が課題になる。 	③教育環境の適正化 ⑤アクセス性への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 西浦中学校が形原中学校に統合されると、西浦がますます衰退してしまうのではないかと心配だ。通学も大変になるので望ましくない。 	③教育環境の適正化 ⑤アクセス性への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 西浦中学校に在籍していても形原中学校の野球部に参加ができるなど、部活だけでも統合してはどうか。両方の中学校の生徒が来やすいように、中間にある公園や公民館などで部活動をしてもらいたい。 	③教育環境の適正化 ⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 中学校は緑が多く、静かで良い環境が保たれている。以前は保護者も関わっていたが、今は先生方だけで維持管理をしているので、今後もその環境を維持していくためには、学校側の負担を大きくしない様に、担い手の問題を解決しなくてはならない。 	③教育環境の適正化 ⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 以前は小学校と保育園が一緒であったが、児童数の増加に伴って保育園が移転した。今は人数が減っているのなら、再度一緒にすれば小学校の空き教室が活用でき、運動会などの行事もにぎやかになるので良いと思う。 	③教育環境の適正化
	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の空き教室を活用してはどうか。その場合は、防犯カメラの設置など、セキュリティの課題を解決する必要があるだろう。 	⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 体育館だけでなく図工室や調理室なども開放し、様々な活動で地区の住民が学校を活用できると良い。その場合、競技によってはコートサイズなど、大人と子どもで仕様が違うので配慮が必要だ。 	①地区の活性化 ⑦運営の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の子どもたちの居場所づくりがもっと必要だ。 	⑦運営の改善
保育園	<ul style="list-style-type: none"> 西浦保育園が0歳児保育を行っていなかった頃は形原南保育園まで行く人も多かった。求めているサービスを提供している保育園や人気の高い幼稚園には、越境してでも通わせる親が多い様だ。 	⑦運営の改善
児童館	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と児童館が離れていて不便なので、複合した方が便利だと思う。 	③教育環境の適正化 ⑤アクセス性への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 児童館では未就園児、未就学児も元気よく遊んでおり、子どもに充実した遊び環境を提供する施設は増やしたい。 	⑦運営の改善
公民館	<ul style="list-style-type: none"> 公民館には利用率の低い部屋があるが、利用者数は市内で上位である。 	○現状認識
	<ul style="list-style-type: none"> 市の出張所が無くなったが、公民館に代替機能があるので特に不満はない。 	○現状認識

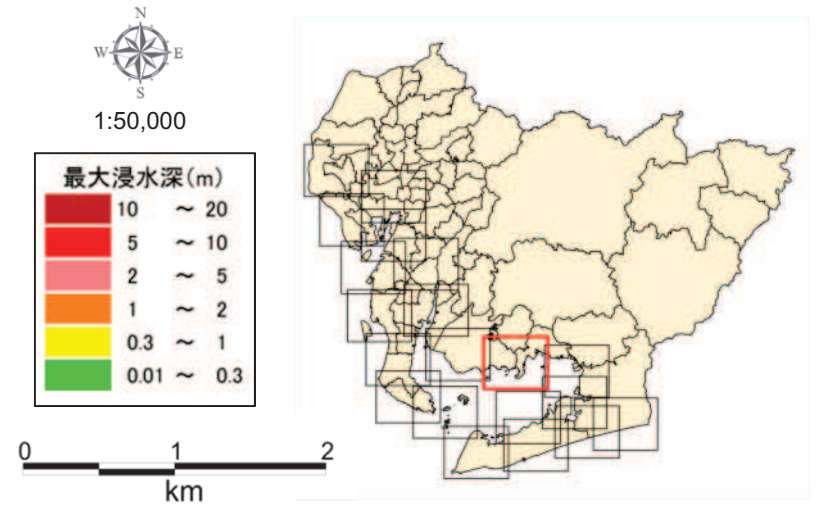
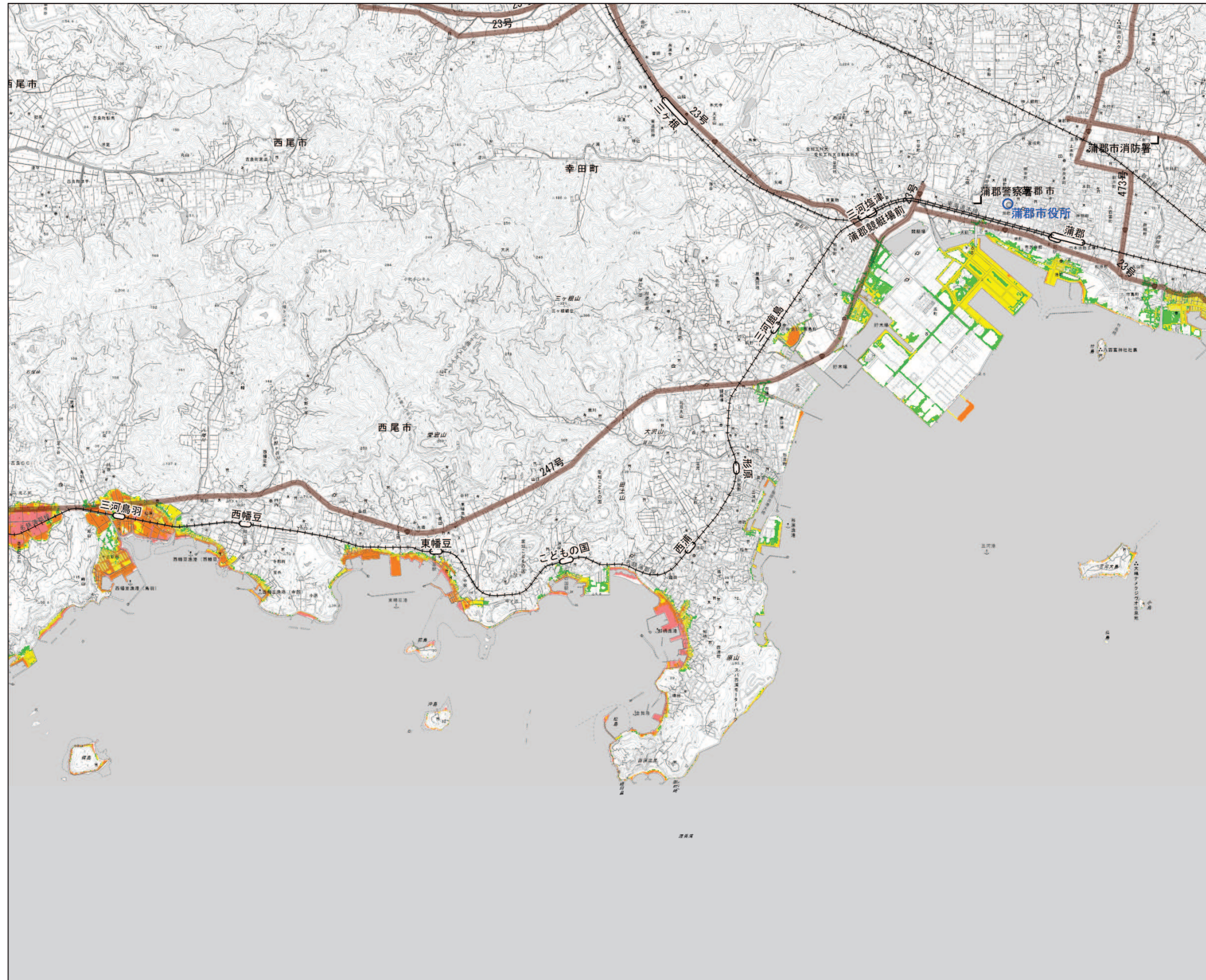
西浦地区 借地面積一覽

	借地面積(m ²)	敷地面積(m ²)	借地面積割合
西浦小学校	10,820.84	18,832.00	57%
西浦中学校	16,524.90	40,131.00	41%
西浦保育園	5,052.98	5,122.46	99%
にしうら児童館	0	1,986.67	0%
西浦公民館	1,765.75	1,765.75	100%

愛知県津波浸水想定 (愛知県HPより)

この図郭に含まれる市区町村：西尾市、蒲郡市、幸田町

図面番号：12/20



- 【留意事項】**
- この図に関する詳細な説明については、「津波浸水想定について(解説)」をご参照ください。
 - 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律(平成23年度法律第123号)第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 - 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。
 - 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 - 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
 - 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
 - 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を图示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
 - この図面は、地盤面を基準にどれだけ浸水しているかを表示しており、地下街や地下鉄などの地下空間、管渠への津波の流入を考慮していません。このため、地下への出入口をはじめ、地下につながっているビルの階段、エレベーター、換気口などが、浸水深より低い位置にある場合、これらを伝って津波が地下空間へ流入する恐れがあります。

- 【用語の説明】**
- 浸水想定について(図-1参照)
 - 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域。
 - 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。

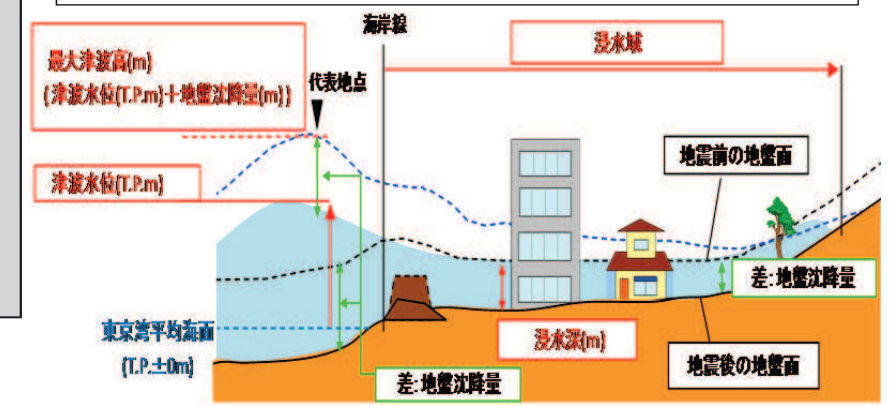


図-1 各種高さの模式図